



「あなたはどこにいるのか」(要旨) 聖書箇所：創世記3章8-13節

【1】 喜びから恐れへ

「あなたはどこにいるのか」(創世記 3:9)。人に対する神の呼びかけでした。この時、人は神から身を隠しました。「そよ風の吹くころ…神である主が園を歩き回られる音を聞いた」(8)。神のこの行動は日常のものでした。人の反応がいつもと異なっていたのです。「…それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した」(8)。蛇(サタン)にそそのかされ、神との約束を破った人に生じた変化でした(3:1-7)。人は、「主が園を歩き回られる音」を恐れるようになったのです。神が恐怖の対象となり、神から身を隠しました。それだけではありません。人と人の関係性も変わりました。「自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った」(7)と。

▷人が神に背いた結果、神と人、人と人との間に、恐れ、不信、恥が生まれました。

【2】 あなたはどこにいるのか

いちじくの葉をつづり合わせた腰の覆いがすぐに役立たなくなるように、園の木の間に身を隠すことも解決にはなりません。人は神に「もう自分たちには近づかないでくれ」と背を向けました。一方神は、人に背を向けることはありませんでした。「あなたはどこにいるのか」(9)、そう言って歩み寄られました。不信に陥り、怯え、恥の中で隠れる人を、神は見放すことができなかつたからです

▷神は私たちの居場所がわからずに「あなたはどこにいるのか」と尋ねているのではありません。私たちが本来いる場所に戻って来るように、呼びかけておられるのです。

【3】 真の解決に至るためには

神は「あなたはどこにいるのか」と尋ねました。それに対してアダム(人)は「私は、あなたの足音を園の中で聞いたので、自分が裸であることを恐れて、身を隠しています」(10)と答えました。何が理由で恐れるようになったのか、本当の原因を隠しました。神はもう一度問いかけます。「あなたが裸であることを、だれがあなたに告げたのか。あなたは、食べてはならない、とわたしが命じた木から食べたのか」(11)。アダムは釈明の機会を用いて他者に責任を転嫁しました。「…あなたが与えてくださったこの女が、あの木から取って私にくれたので、私は食べたのです」(12)。エバ(女)もアダム同様に責任を転嫁しました(13)。

人は自分以外の「何か」や「誰か」に責任を転嫁することで自らを守ろうとします。自分を取り巻く環境が変わることが問題解決のために重要だと考えます。神はそうした人に呼びかけます。「あなたはどこにいるのか」と。

▷神は、神と人、人と人が真に和解することができるようにと、イエスをこの世に遣わしてくださいました。神の前に言い訳や責任転嫁は役に立ちません。神は人が自分の罪を告白し、悔い改め、そして立ち返ることを待っておられます(箴言 28:13)。

